



持続可能な開発目標に関する両国の課題解決に関する学際的研究 (環境対策・畜産農業・農村社会・環境教育・コミュニケーション研究)

島根大学・寧夏大学国際共同研究所

本研究所は、SDGsに関する課題解決を第1項に掲げる国際共同研究所第5次基本合意書（2024年6月締結）に基づいて、中国の関連大学と学際的研究を推進しています。2024年12月に、第21回中日国際学術セミナーが寧夏大学で5年ぶりに対面によって開催されました。全体テーマを『中日両国における特質産業の現代化と発展』とし、持続可能な発展、伝統産業のグリーン転換、人材育成、社会サービス等の分野に関わる課題を中心に報告が行われました。

また、研究所が形成する西部学術ネットワークによって、西北農林科技大学、人民大学、立命館大学等と共同で国際フォーラム、個別セミナーを開催しています。



■現在実施中の共同研究課題

寧夏大学（寧夏回族自治区銀川市）

「耕畜連携」の日中比較と学際研究 —窒素フローからみた地域の持続可能性アセスメント—

概要：日本の中山間地域と中国・西北部が抱える地域環境および生態系の保全・修復と畜産経営の安定の両立という共通の課題を解決するため、社会/経済学・動物栄養/畜産学・生態環境/土壌学からの学際的アプローチと国際共同研究により、日中双方のフィールドにおける地域環境・地域社会・地域経済の持続可能性を実現するための「耕畜連携」モデルを提示する。



蘭州大学（甘肅省蘭州市）

メタン放散低減を目指した 寧夏自治区における新形質枸杞茎葉部の飼料化

概要：家畜生産成績の向上と環境への配慮を両立した大規模家畜飼養モデルの確立に寄与するため、近年寧夏で発見された新形質枸杞を供試し、茎葉部の飼料価値査定と、肉用牛・在来羊への給与試験によるエネルギー利用率・窒素蓄積成績・メタン産生量に関する調査を実施し、新規粗飼料源としての飼料価値を明らかにする。

